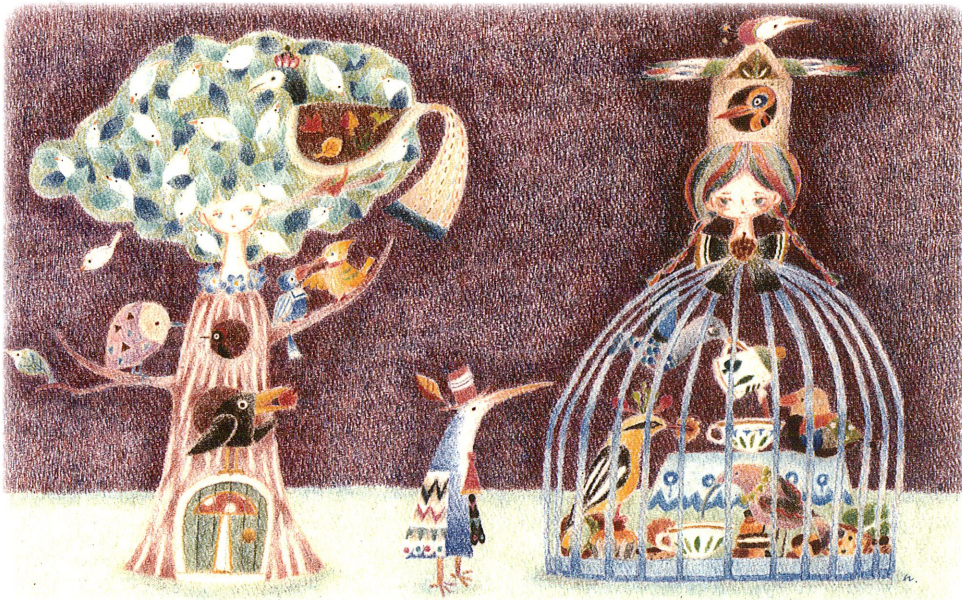


News Letter

発行

認定NPO法人子どもシェルターモモ
〒700-0861 岡山市北区清輝橋1丁目2-9
電話・FAX 086-206-2423



CONTENTS

- ・巻頭言 1
- ・インタビュー「人」 2
- ・平成28年度ボランティア
養成講座終了 3
- ・アフターケア相談所「en」 4・5
- ・子どもシェルター通信 6
- ・おおもと荘通信 6
- ・あてんぼ通信 7
- ・事務局だより 8

■表紙絵「えらべない」内村 暁

巻頭言

男子用自立援助ホームの新設

認定NPO法人子どもシェルターモモ 理事長 東 隆司



2009年4月1日に開設した男子用の自立援助ホーム「おおもと荘」は、当法人が一番最初に開設した施設です。

ホームの建物は、既に建築後数十年を経過している農家住宅です。敷地が広く、近所の住宅ともある

程度距離がありますので、近所との間のトラブルもなく、助かっています。

入居する子どもの個室を6部屋確保するため、建物をリニューアルしましたが、建物の老朽化はいかんともし難い状況です。

昨年4月の熊本地震のような大地震が起きると倒壊するおそれがあり、新たにホームの建物を確保する必要性が現実のものとなっています。

民家住宅を借りて施設用に改造するか、新たに施設用の建物を建築するか、いろんな選択肢が考えられます。

自立援助ホームを開設して既に8年以上経過していますが、これまで頭を悩ましてきたのは、受け入れる子どもの自立のためにどんな支援が必要か、子どもとの良好な人間関係をどのようにして築くかなど、専ら

ソフト面に関するばかりでした。

私自身、ホームの運営については他の自立援助ホームの職員等に話を聞き、勉強したことはありますが、他のホームの建物を見学したことはなく、どのような建物や居室の構造が子どもや職員にとって、共同生活を営む上で快適なのか、知識はほとんどありませんでした。

本年7月の理事会で、新たにホームの建物を確保するに当たって、子どもや職員が快適な生活を送ることができるよう、職員や理事のほか建築士などの専門家に加わってもらってプロジェクトチームを作り、プランを練ろうということになりました。

ホームのハード面をどうするか、いよいよ本腰を入れて検討しなければならなくなりました。新築ということになれば土地を確保しなければなりませんし、民家住宅を借り入れるなら十分な広さの建物の確保と建物の改造が可能かどうかとも問題となります。

皆様にも土地や建物の情報がありましたらどうぞお知らせ下さい。

また、資金の援助についても、今後もよろしくお願いします。



インタビュー

岡山県中央児童相談所
所長

池内 正江 さん



残暑厳しい時に、インタビューに快くお引き受けしていただきました。優しさがあふれ出るお人柄に引き込まれるように時間を忘れてお話が進みました。

児童相談所という仕事を選ばれた理由をお聞かせください

小学校5年の時の作文で、家族と一緒に暮らせない子どものお世話をする人になりたいと書いたんです。その理由は、近所で祖母と2人暮らしをしていた女の子が、急に祖母の体調不良で施設に行ったことがきっかけでした。そのような体験をきっかけに、福祉大学で学んだ後、子どもと関わる仕事をしたいと学校、施設、児童相談所で経験を積んできました。

子どもたちに身に付けてもらいたいことは

人と繋がる力です。子どもにとって、自分を大切にしてもらった経験や、体験をすることは最も大切なことだと思います。特に困難を抱えた子どもたちは、そのような体験をしていないためおとなを信用していないケースが大半です。どんな場合でも、寄り添い、とことん忍耐強く付き合う事が支援には大切だと感じています。心が満たされることで、子どもたちは、人と繋がる力を身に付けていくのだと思います。困ったときにSOSが出せる力を身に付けて巣立ってもらいたいと思います。今、SNSを使って他人と簡単に繋がっていく方法がありますが、重複しますが、信用できる人と繋がっていくためにも、人に大切にしてもらった体験・経験が重要になってきます。

思い出深い子どもはいらっしゃいますか？

関わってきた子どもたちがすべて思い出深いです。特にと言われると難しいですが、最近こんなことがありました。何年か前に一時保護し、施設入所した子どもが大学生になり「保護所が懐かしくなった」と手土産を持ってきてくれました。また子どもがおとなになり、結婚して2人目の子どもの出産時、「上の子どもを見てくれる人がいないから助けてほしい」と連絡があり、その後も子育ての相談を受けています。児童相談所でなくてもよいのですが、誰かにS

O S の声を出してくれたことは、「大切なことを身につけてくれた。」と安堵しました。何より、子どもたちの笑顔が見られた時は「頑張ろう」とエネルギーをもらいます。

地域社会でできることは何かありますか？

「おはよう。行ってらっしゃい。おかえり。」の挨拶だけでも、孤独な子どもたちからすれば関心を持ってくれるおとなです。気にしてくれている。場合によっては助けてくれると思うかもしれません。そのようなコミュニティがあると、子どもだけでなく困っている親も孤独ではなくなるかもしれません。生活の身近なところでのサポートが親と子にあると違ってくると思います。

子どもシェルターモモに期待することがありましたら教えてください

今、義務教育終了後の子どもの保護が増えてきています。困難を抱えた、複雑なケースの受け入れを子どもシェルターモモにお手伝いしていただいております。義務教育終了後の子どもや施設で生活できなくなった子どもたちの居場所が岡山県は本当に少なく増やしていただかないといけなけません。子どもたちのことを真剣に考え、忍耐強くかわっていただいている子どもシェルターモモさんとの連携は心強いです。また、子どものその後の生活を考えて、色々な機関に連携を取っていただき、自立への橋渡しもしていただけるのがうれしいです。

インタビューを終えて

インタビュー中に、2度も呼び出しがあるご多忙の中大変お世話になりました。

(文責：東 りえ)

平成28年度ボランティアスタッフ養成講座終了



平成28年度のボランティア養成講座は右記のプログラムで行いました。

子どもたちを知っていただき理解していただくことが援助の第一歩であると思っています。そして、自立援助ホームやアフターケア事業へのボランティアでかかわっていただきたいという思いから児童養護施設からも講師をお招きしました。その中で、今年度は海外（カナダ）の社会的養護の取り組みについてもお話していただきました。また、シェルター「モモの家」及び自立援助ホーム「おおもと荘」のホーム長に、共同生活をしながら職員がどのような思いをもって子どもたちとかわっているのか話していただきました。（平成29年度は1月より始まります）



回	日 時	プログラム
1	1月20日(金) 18:30~20:30	「子どもシェルターモモが目指すもの」 ～子どもの権利保障～ 東 隆司 さん(子どもシェルターモモ 理事長・弁護士)
2	1月27日(金) 18:30~20:30	「困難を抱えた子どもの理解と援助①」 ～愛着～ 中野 善行 さん(なかのクリニック院長・精神科医)
3	2月3日(金) 18:30~20:30	「困難を抱えた子どもの理解と援助②」 ～非行～ 高木 成和 さん(岡山パブリック法律事務所津山支所長・弁護士)
4	2月10日(金) 18:30~20:30	「困難を抱えた子どもの理解と援助③」 ～虐待・発達障がい～ 尾形 佳晃 さん(岡山県中央児童相談所主幹)
5	2月17日(金) 18:30~20:30	「海外の社会的養護の子どもたち」 ～カナダの取り組み～ 津島 悟 さん(社会福祉法人若松園園長)
6	2月24日(金) 18:30~20:30	「子どもシェルター」 ～「モモの家」の取り組み～ 青野 雅世 さん(子どもシェルター「モモの家」ホーム長)
7	3月3日(金) 18:30~20:30	「自立援助ホーム」 ～「おおもと荘」の取り組み～ 土井 一成 さん(自立援助ホーム「おおもと荘」ホーム長)
8	3月10日(金) 18:30~20:30	「まとめ」 ～感想とシェアリング～ 中野 善行 さん(なかのクリニック院長・精神科医)

受講生の感想

子どもたちの「セーフティーネット」という使命のもとに。モモは何があっても見放さない。

児童養護施設に勤務していたため、施設から送り出した子どもたちが、その後、保護者の支援もないままに、どのような生活を送り、困難を抱え、職を失ったり、生活の場を失った際に、どういう寄り所があるのかを知りたいと思い受講致しました。非行や発達障害等あり、対人関係や就労等が難しい子どもたちにとってのセーフティーネットとして、弁護士さんや精神科の先生など専門家の先生方によってこうした施設や活動が運営されて、子どもたちのために維持継続されていることが、今後必要であり大切であると感じました。こういった活動に尽力して下さっている先生方の温かい思いが子どもたちの心に届いてほしいと願っています。

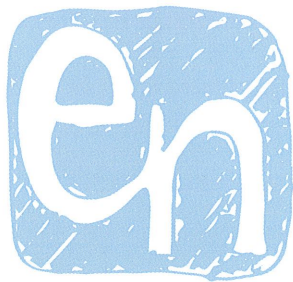
弱い立場にある人が怒ることは大切な事だ。

目に見える現象を理解しようとする時に、背景を知ることが大切であることを改めて感じた。「怒る子ども」に対して、どのように接していいかわからず、私だったら 苦笑いするか、その場を離れたくなるかもしれない。でも、中野先生の話を聞いて、「彼らは一生懸命に悲しみや、痛みを伝えようとしているのだ」と理解できたら、きっと、私の中で彼らと向き合う心の準備ができると思いました。

子どもたちにとって敵にはならないでほしい。

聞きごたえがある内容でした。困難のある人を支える地道さ、厳しさを感じました。一つ一つの積重ねでしかない。健康や幸せに近づく近道はないのだと思います。

アフターケア相談所 en



アフターケア相談所「en」は児童養護施設等を退所した子ども・若者たちの困った時の相談窓口です。「子どもシェルターモモ」が平成28年度より岡山市からの委託を受けて開設しています。平成28年度の利用者は延べ795名でした。

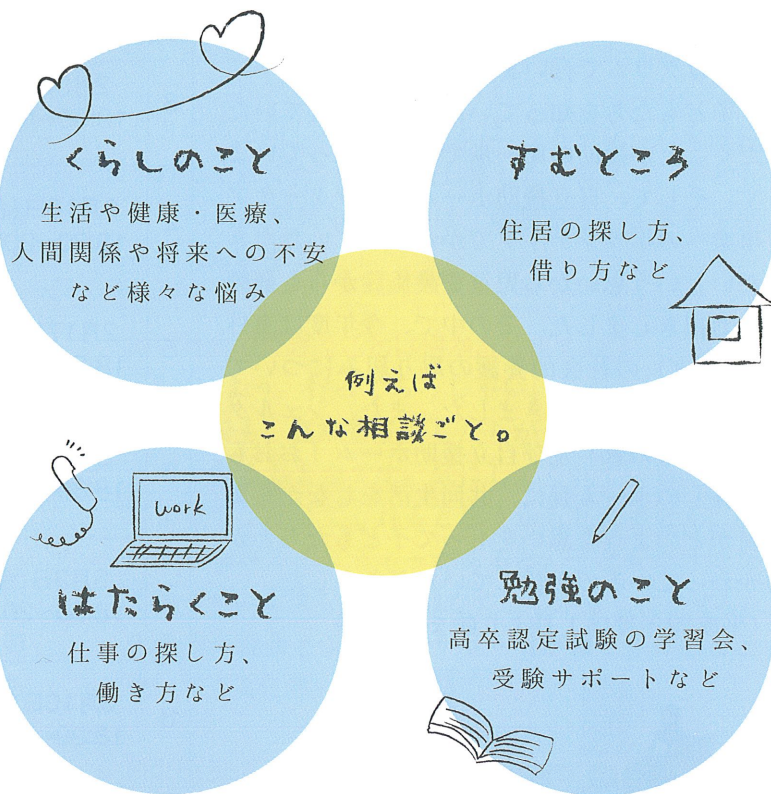
MISSION 1 個別相談

「en」では日常生活における色々な問題について一緒に考え、解決に向けたお手伝いをします。必要に応じて手続き等の同行支援や、他の支援機関への繋ぎ役を担います。

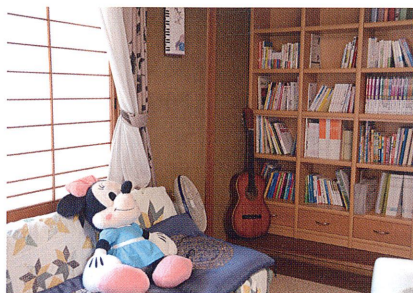
MISSION 2 居場所

「en」は気軽に立ち寄れる居場所として岡山市の中心部にあります。

「おかえりなさい。まったたよ。」とスタッフやボランティアさんが迎え入れてくれます。実家に帰ってきたような雰囲気を大切に、ゆったりくつろげる場です。



玄関アプローチです



リビングで静かに読書するスペースもあります



子どもと一緒に作った祭りずしです



お誕生日会はじまり～

食事会

～スタッフのお誕生日会～
平成29年5月

いつもお世話になっているスタッフに喜んでもらいたいと「en」に集まってくる子どもたちが中心になって、企画・進行。前日からの準備すべて子ども主体で進めました。お誕生日会に集まった人数は20人弱。いつも広々としたリビング・ダイニングが狭いな～と感じた楽しいひと時でした。

退所前支援

施設を出て社会に巣立っていく子どもたちに向けて、退所前「学び講座」を開催しています。

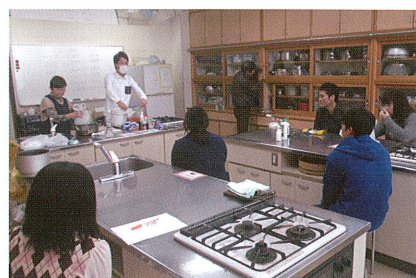
退所前に知っておきたい仕事の事、一人暮らし用の食事の作り方など社会生活を送るために必要な知識を得るための様々な講座を実施します。

ワークショップを取り入れて楽しく学べる工夫もしています。料理も栄養を考えたメニューを作ります。

開催日	内 容	講 師
8月20日	先輩たちはどんな暮らしをしているの？	湊雄貴さん キャリアコンサルタント
9月18日	自分らしくお金と上手に付き合うために知っておきたいこと	吉田洋基さん ファイナンシャルプランナー
10月29日	給料からひかれたお金はどうなるの？	影山貴敏さん 社会保険労務士
11月26日	かいしこい社会人になるために知っておきたい契約の話	森谷和信さん 岡山市消費生活相談員
1月29日	かんたんクッキング	阪井貴久さん 飲食店調理員／児童養護施設出身者
2月25日	ナチュラルメイク・身だしなみ	資生堂 ビューティーコンサルタント 2名



ワークショップ



かんたんクッキングを実践中

巣立った子どもからのメッセージ

うち、本当に思う。なんか親に育児放棄されて施設の先生に育てられて幸せだった。自分で感情とか言われんから今伝えます。うちは自分の気持ちを伝えるのが下手で、暴言や暴力で伝えてきた。正直うち育ててくれた先生たちに暴力や暴言している時の心の中が辛くて、でもどうしたらええかわからなくて、こんなことばっかでごめんなさい。親の愛情がなくても施設の先生達がうちを大切にしてくれて、ちゃんと育ててくれた。本当に感謝しています。少しでも最後に、施設の先生やあてんぼに挨拶に行きたかったけど、今まで育ててくれた先生に会うと泣いてしまいそうで挨拶ができなかった。人前で泣くとか嫌なんよ。皆の前で笑ってふざけて、でも一人の時は泣いたり考えたりすごい頭の中で辛かった時もあった。だんだん成長するうちに自分でも我慢できるようになってきて、施設の先生達のおかげだよって思うようになりました。正直、大人が嫌いだから当たってしまうばっかで、でも施設の先生が離れていったらどうしようかと変なことばっか考えてました。

これからうちは大人になっていくけど、少しずつ成長していきたい。これから頑張りたい。幸せになるって思う。過去は過去、今は今。過去のことなんか考えてもしようもないんよな。今や、これからのことを考えていく方が楽なんよね。

最後にお世話になった先生たち、うちを育ててくれて、成長させてくれてありがとうございました。最後に、先生たち、皆大好きです。

元あてんぼ利用者 Mさん

アクセス



岡山駅前

路面電車
「清輝橋」方面乗車
(約12分)

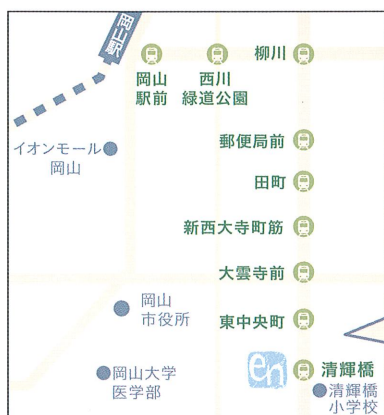


清輝橋 電停下車

(徒歩5分)



アフターケア
相談所えん



子どもシェルター通信

「シェルターで働き始めて」



私がシェルターで働き始めてから半年ほどたちました。以前から、シェルターの活動に関心があり、何か自分もできることはないだろうかと思っていたところに、たまたまご縁があり、今年の4月から働いています。

食事の用意もだいたい慣れてきました。もともと料理に自信がないうえに、子どもたちの好き嫌いに合わせて食事を作るため、何を作ろうか頭を悩ませたり、作ったことがない料理にも挑戦したりして、毎回ドキドキしながら作っていましたが、最近はいろいろとアレンジもできるようになってきました。シェルターに来たばかりのころ、先輩スタッフが「シェルターにいる子どもたちは、外にも出れず、楽しみもあまりないから、食事は大切にしている」と話していたのが印象に残っており、私もそれに倣って、おいしくご飯を食べてもらえるように、日々奮闘しています。

シェルターで働き始めて思うことは、子どもの気持ちを汲んで考えることの難しさと大切さです。

シェルターには、様々な事情を抱えた子どもがやってきます。彼女たちの話や生活の様子から、現在の心境を推測しますが、彼女たちの心は日々揺れており、それを取り繕って明るく振る舞う子もいます。その上、子どもたちを取り巻く状況も変わっていきます。子どもの気持ちを汲み取るためには、それらを踏まえて、目に見える子どもの言動に振り回されず、推察しなくてははいけませんが、なかなか本心が見えず、難しさを感じています。

しかし、子どもが本心を隠してしまうのは、今までそうして生きてきたからだと思います。だからこそ、今までと同じようにならないように、子どもたちの気持ちを汲んで日々関わり、今後を考えていかなければならないのだと思います。

シェルターで働く中で、子どもに寄り添うということはどういうことなのか、日々考えさせられています。子どもの話をよく聞き、生活の様子をよく見て、子どもの気持ちに即して自分に何ができるのかを考えていこうと思います。

(文責:古川 彩)



自立援助ホーム

おおもと荘通信

「なんで分かってくれないの？」

おおもと荘には様々な背景をもった子ども達が利用しています。子ども達は、それぞれの特性で感情のコントロールが苦手な子がいます。その思いの訴え方は、言動や態度、時には暴力にも発展してしまうかもしれません。

しかし、自分以外の誰かに、自分のやりきれない思いや、納得できないこと、自分の全てを受け入れてもらうことは難しいのかなと思います。たとえ、訴えにより大人の注目を集めて、一時の寂しさが紛

れることはあっても、また何かの拍子に出てくる。そして、自分を受け入れて欲しくても、満足いくまで受け入れてもらえずに、横柄な態度に出してしまう姿も見られます。

社会規範をしっかりと身に付け、「自分の思いをわかってくれない」気持ちを、怒りや暴力で伝えるのではなく、社会の中でどう折り合いつけていくことができるのかを身に付けてほしいと思いながら関わりを持っています。

「おおもと荘を出たあと」

自立援助ホームを出た後に、子どもたちに待っている環境は「自立」です。仕事をしながら自分を取り巻く環境や人間関係で困ったり、話をしたくなくてもホームに居たころのように側におとながいて本人が話したいときに話ができたり、様子の変化に職員が声をかける保証はありません。だからこそ、何気ない日々の当たり前を積み重ねて良い関係をつくって欲しいと思います。そして、おおもと荘を卒業してからも、困ったり何か話がしたくなったら、自分の殻に隠れてしまう前にフラッと遊びに来てもらえたらいいなと思います。

「何もなくとも いつでもおいで」

おおもと荘には夏休み期間中にホームを出た子が来て、利用者と一緒にゲームをしたり、外出をする

などの交流が見られました。また、夏休み期間でなくても職員への近況報告にくる子もいます。その光景を見て、現在入所している子どもたちも、退所後に「おおもと荘に帰ってきてもいいんだ」と感じてもらえると嬉しいです。そして、おおもと荘が、自然と居場所になっているんだろうなと思うと気持ちが暖かくなります。

(文責：原嶋 梨紗)



自立援助ホーム

あてんぽ通信

あてんぽは、平成27年10月に北区法界院に開設されました。16歳から19歳の女の子が今までに15名入所して10名が巣立っていきました。現在は、5名が暮らしています。

学校へ行ったり、仕事へ行ったり、仕事と通信制の高校を両立している子もいます。おのおのの目標に向かって頑張っています。

現在、職員3人で、この頑張りにさらにパワーを注げたらと考えながら一緒に暮らしています。「思い通りに行ったわ!」なんてことは、残念ながらひとつもない毎日で、言葉かけ一つ、対応の一つによかったのかな?と振り返ったり、「自立」ってなんだろう、「自立援助ホーム」ってなんだろうと、職員同士で話をします。

子どもたちは「困ってる」と言えるようになるまでに長い時間がかかります。やっと出せたSOSに応えてくれるおとなを増やすことが、彼女たちを支える力になると考えています。

まずは、「そんなおとなにならなくちゃね」とは職員の共通認識です。そして社会を広げていくようにお手伝いしていこうと考えています。厳しい環境を生き抜いてきた子どもたちは、時折、私たちには考えられないような逸脱行動をしますが、今まで出会ってきたおとなとは違う行動をしようと心に言い聞かせて接するようにします。そうやって私たちをも育

ててくれる存在です。

あてんぽでは、社会に出ればいろいろな人



がいるということ体験してもらいたくて、イベントをしたり、ボランティアさんに日常的にきてもらったりもしています。先日は、バーベキューパーティーを行いました。理事さんの顔をみて、子どもたちは「いろんな理事がいるんだね」と感慨深そうに言っていました。別の子も「理事長とは、入所の時に難しい話をしただけ。こんなに話しかけてもよかったんだね」。こうして、少しずつでも人と繋がって社会の荒波に出合った時、顔の浮かぶおとなを増やしてもらいたいなと願っています。

(文責：岡嶋 安起)



事務局だより

第8回子供達のためのチャリティーコンペで多額のご寄付をいただきました！

県内外で活動する有志・企業が集まり、「自分達で出来る社会貢献を…」をテーマに、特に未来を担う子どもたちをサポートしようと始められたゴルフコンペで、今回で8年目の取り組みです。今回は300,000円のご寄付をいただきました。ご協力いただきましたみなさま、本当にありがとうございました。

今年もチャリティー備前焼販売より多額のご寄附をいただきました！



今年も岡山一番街コンコース広場で、若手の備前焼作家の有志の方々「from bizen」によるチャリティー備前焼販売が3月5日（土）に行われました。このイベントは、備前焼作家の藤原和氏の呼びか

けにより若手を中心とする有志の作家の方々が作品をチャリティー価格で提供されるもので、今年で6年目の取り組みとなりました。購入代金は、AMD Aと子どもシェルターモモの募金箱へ直接入れていただき、売上金全てを寄附して下さるという形をとられています。今年もたくさんの方にお越しいただき、子どもシェルターモモには、182,147円のご寄附をいただきました。

作品を提供くださった作家のみなさま、作品をご購入して下さったみなさま、またボランティアとしてお手伝いいただいたみなさま本当にありがとうございました。

【備前焼チャリティー販売に出品して下さった作家の方々】

石田育男	出井 隆	岩本哲也	内田和彦	大饗利秀
大石橋宏樹	大森宏明	木村茂夫	久郷剛司	小橋俊允
榊原啓司	柴岡 力	柴岡 久	柴岡宏和	澁田寿昭
高原 武	多久周作	竹内千恵	竹内靖之	竹崎典泰
竹崎洋子	辻 多恵	豊田賢潔	中野智正	乗松美歩
馬場隆志	原田圭二	原田良二	藤森信太郎	藤原 和
藤原喜久代	藤原賢史	武用 崇	武用 務	細川敬弘
前 和臣	松井浩之	松笠浩三	松島健治	松本優作
水上岳正	森 和彦	森 大雅	森 敏彰	森本直之
山村富貴子	横山伸一	横山直樹	吉延真一	好本康人
渡邊琢磨				(敬称略)

編集後記

暑い夏が、過ぎて行くのを感じながら、一抹の寂しさと一緒にやれやれと思っているのは私だけではないでしょう。

今回から、ボランティア4名がこのニュースレターの編集をさせていただくこととなりました。子どもシェルターモモの社会的意義を伝え、皆様方にご理解いただけるように頑張りたいと思います。引き続き応援をお願いいたします。

赤い羽根共同募金(テーマ募金)

～「地域から孤立をなくそう」ささえあいプロジェクト～
で143万円の助成金をいただきました！

1月1日から2月8日までの2ヶ月間、『赤い羽根共同募金(テーマ募金)～「地域から孤立をなくそう」ささえあいプロジェクト～』に参加しました。この募金は岡山県共同募金会のご協力により、募金額に加算してモモに助成されるというものでした。みなさまのおかげをもちまして、目標金額を大きく上回る1,164,801円のご寄附をいただき、共同募金会からの加算も加えて、合計で1,430,000円の助成金をいただきました。今回の募金はアフターケア相談所「en」の環境整備およびパンフレット及びホームページ作成の費用に充てさせていただきます。ご協力いただきましたみなさま、本当にありがとうございました。

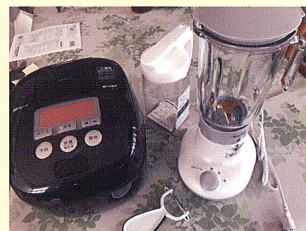
アライブ岡山より生活必需品をいただきました！

アライブ岡山の『生命と想いをつなぐプロジェクト』より、使われなくなった家電や三段ボックス、洗剤などの日用品をご提供いただきました。ホームを巣立つ子どもたちは自分たちで物品を調達しなくてはならないため、大変助かっています。

イオン黄色いレシートキャンペーンに参加しています

このキャンペーンは、毎月11日に黄色いレシートを、イオンモール岡山の店舗に設置されている専用の投函BOXへ入れると、合計金額の1%が子どもシェルターモモに寄付されるものです。毎月11日にイオンモール岡山でお買い物の際は是非、レシートの投函をお願いいたします。平成28年4月から平成29年2月の間に投函いただいたレシートの合計4,546,210円の1%の45,400円のご寄付をいただきました。本当にありがとうございました。

今回のご寄付ではシェルターで使用する炊飯器とジューサーミキサーを購入させていただきました。



ご寄付は金額の多寡に関わりなく
下記へご送金頂ければ幸いです。

郵便振替口座 01370-4-52835

特定非営利活動法人
子どもシェルターモモ

(ご送金の際はお名前・ご住所・ご寄付で
ある旨ご記入いただければ幸いです。)

この広報誌は(株)ベネシードの支援を受けて作成しています。